

# EVで街づくり

## 新たな日独連携に期待

再生可能エネルギーの積極活用で知られるドイツ西部のノルトライン・ヴェストファーレン（NRW）州が新たな施策として力を入れるのが、電気自動車（EV）を中心とした街づくり。環境を軸とした新たな日独連携へ期待を寄せ、NRW州経済振興公社のペトラ・ヴァスナー理事長に投資促進戦略を聞いた。（神崎明子）



ドイツ・ノルトライン・ヴェストファーレン州  
経済振興公社理事長

ペトラ・ヴァスナー氏に聞く

「べ有利だ」

「日本との新たな重要協力分野と位置づける「e-モビリティ」構想とは。

「ドイツ政府はEV普及のモデル地域として、NRW州のラインール地方などを選定した。デュッセルドルフやケルンといった大都市が密集することが理由のひとつで、欧州初の広域e-モビリティ地域となるだろう。具体的には20年までに25万台のEV普及を目指しており、基本計画では自動車および電池技術とインフラネットワーク分野を重要施策と位置づけている。関連技術を91年NRW州経済振興公社に入社。01年理事長に就任、外国企業の誘致やコンサルティングなどを積極的に推進している。54歳。」

持つ日本企業の進出を期待している」

「EVの本格普及には研究開発補助以外に、どんな支援が力ギとなりますか。」

「例えばEVの充電に

ラグが利用できればEVそのものの普及にも弾みがつくだろう」

「NRW州には3200社もの再生可能エネルギー関連企業が集積。2万人以上の雇用創出を実現しています。環境対策と経済成長両立の力ギは。」

「NRW州の場合、環境問題への対応と経済成長は結びつかなければならぬという意識が早期に醸成され優先順位に基づき必要な施策が実施されてきたことが大きい」

「温暖化問題の解決には産業界の意識改革も問われます。」

「州政府が主導し設立した民間会社『効率化エーシエンシー（EFA）』の取り組みはユニークだ。企業の生産現場や管理部門における資源利用の実態を把握した上で、有効利用を提案するコンサルティング業務を行っている。環境規制を強化するだけでなく、エネルギー効率の改善が企業競争力向上につながることを実証するような、きめ細かな施策が一層重要になる」

## 自動車・電池技術・インフラ 普及加速へ重要協力分野

使うプラグの世界標準化は重要。（世界の大手自動車メーカーやエネルギー企業が共通化で合意したとされる）充電プラグは、NRW州内に拠点を構える企業が開発したものが、各国が同じ方法でプ